東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第2学年 音楽科学習指導案

授業者 中内 悠介

授業学級 | 2年D組(男子17名, 女子18名)

授業テーマ

国境を越えて広がる雅楽、時を越えて伝わる雅楽 ~古代中国から派生・伝播した雅楽はなぜ形を変えたのか~

1. 題材の目標

我が国の雅楽、東アジアの雅楽、復元演奏の 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史およ びその特徴から生まれる音楽の多様性につい て理解するとともに、音楽表現の共通性や固有 性について考え、雅楽のよさや美しさを味わっ て聴く。さらに、雅楽の学習を通して見えてく る文化の変容について考える。

【第2学年及び3学年 B鑑賞(1)鑑賞 ア(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)】

2. 題材の計画と本時の位置づけ 【第1時】4月27日(木)50分回①

●雅楽へのいざない

・日本古来の音楽、雅楽の歴史や文化を知り、 楽器の音色や全体の響きを捉えて聴く。

【第2時】5月11日(木)50分

●我が国の雅楽のよさや美しさ

- ・『越天楽』の音楽的特徴を捉えて聴く。
- ・篳篥の唱歌を通して雅楽の伝承方法につい て知り、雅楽を聴き深める。

【第3時】5月25日(木)50分圖 團

●国境を越えて広がる雅楽

- ・ 我が国の雅楽と東アジアの雅楽との比較鑑 賞を通して、国境を越えて派生・伝播した雅 楽のよさや美しさを味わって聴く。
- ・古代中国の雅楽が、東アジアの国や地域に 伝わり変容を遂げた理由について、自分な りの意見をもつ。

【第4時】本時 6月17日(土)50分團2

●時を越えて伝わる雅楽

- •『五常楽急』と復元演奏の比較鑑賞を通して、 それぞれのよさや美しさを味わって聴く。
- ・共通性と固有性に関する思考を通して、文化 は変容していくことの意味について、これま での学習内容をもとに考察を深める。

3. 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知できます。 地域の はいか はいか はいか はいか はいか はいか はいか はいか ない	型リ律をのすを知感ので 電大・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	態は、
ックを指す。		

4. 本題材で目指す生徒の姿

雅楽についての教科書の学習内容を踏まえ、 古代中国から伝わった雅楽がなぜ形を変えた のかについて、東アジアの宮廷音楽や復元演奏 の鑑賞を通して考察を深めていく。国境(横軸) や時空(縦軸)を越えた雅楽の広がりや伝承に ついて学び、それぞれの音楽の価値に気づく。

一般化の発問「文化はなぜ変わるのか」「文化 が変わることの意味」は、学習内容をより広い 文脈に位置づけ(一般化)、普遍的な原理・法則 に関連づけながら応用や転用する能力を育む。

5. 本題材に関連する情報活用能力の育成

2022 年度より 4 教科連 携・横断による研究を進めて きた。「よりよく伝える」を テーマに、国語科をハブ教科 として批評文や新聞の作成 (理科)、説明書の読み方(技



術) について理解を深めた。本題材では国語科 と連携し、より良い批評文の作成や批評におけ る思考の一般化を試みた。※理科と技術科との機能的な学習は現在機業中である。

6. 本時の展開

- 「五常楽急」と復元演奏の比較鑑賞を通して、それぞれのよさや美しさを味わって聴く。
- ・共通性と固有性に関する思考を通して、文化の変容について考察を深める。

学習活動

指導上の手立てや留意点

学習課題 文化が変わることの意味

1 雅楽の音楽的特徴についての確認

・前時までに学習した雅楽をダイジェストで鑑賞する。

2 『五常楽急』の鑑賞

- ・『五常楽急 (現代の演奏)』を鑑賞する。
- ・『越天楽』との共通点を伝え合う。
- ・『五常楽急 (復元演奏)』を鑑賞し、『五常楽急 (現代の演奏)』 との相違点を見つける。
- ・復元演奏と東アジアの雅楽との<u>共通点</u>を伝え合う。

3-1 批評文を書く

・現代の演奏と、復元演奏それぞれのよさや美しさについて自分なりの考えを表す。

3-2 文化の変容について考える

・これまで学んだ雅楽をダイジェストで鑑賞する。

- ・雅楽の主な音楽的特徴(すれ、序破急、音の重なり等)や前時までの学習内容の要点を 振り返り、本時の見通しをもつ。
- ・読み方「ごしょうらくきゅう」、作曲者と年 代を伝える。
- ・「越天楽」との共通性(すれ、序破急、音の 重なり等)を見出せればよい。
- ・必要に応じ復元演奏と現代の演奏を比較聴 取し生徒の気づきを全体で共有する。

□予想される生徒の様子:

速度、音色、旋律(音階)、重なりが異なる。

個々の感受による曲想についての言及。など。

・使用楽器等の共通性を見出せれば良い。

□批評の構造

はじめ:印象は異なることを述べる。

なか:印象が異なる理由を、知覚したことと感受したことから述べる。 まとめ:それぞれのよさを述べる。

・雅楽の横の広がり(東アジアの雅楽)や縦のつながり(現代の演奏—復元演奏)についての学習を転用し、学習内容をより広い文脈に位置付けて捉えることができるよう助言する。

むすびの問い: 文化が変わっていくことは、私たちにとってどのような意味があるのだろう?

・雅楽の学びを通して考えたことについて考え、批評文 (はじめ、なか、まとめ)の続きに「むすび(※)」と して、考えたことを書く。

※「むすび」について、転用や一般化の考え方については国語科との連携により既習

・批評文と関連させて、「むすび」を書くよう に伝え、考えたことを全体で共有し、発表を 価値づけしながら学習の要点をまとめる。

◎評価(思・判・表、ワークシート)

○五常楽急と復元演奏の比較鑑賞を通して、それぞれのよさや美しさを味わって聴くことができたか。

○共通性と固有性に関する思考を通して、文化は変容していくことを 理解し、自分なりの考えを表すことができたか。